

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

3年1組 丸山先生(道徳) 5年3組 小林先生(道徳)
研究授業から

9月16日(火)、2時間目に3年1組、3時間目に5年3組にて研究授業が行われました。

3年生、5年生ともに、授業前の準備、あいさつ、友達や先生の話の聴き方など基本的な学習規律の定着が行われており、どの子ども達も温かい学級の雰囲気の中、安心して授業に参加することができていました。

ともに道徳の学習だったのですが、導入において子ども達のアンケートを基に「最後までやりぬくこと」「人を許す気持ち」について子ども達に関心や学習の視点をもたせ、本時のめあてにつなげることができていました。

展開段階では丸山先生は「表情カード」を、小林先生は「心情カード」を、子ども達に自分の考えを持たせるための支援として用いていました。丸山先生が用いた「表情カード」は主に板書上で「頑張る気持ちがどのように大きくなっていったのか」を視覚的にとらえるための支援として有効に働いていました。また、小林先生が用いた「心情カード」は、「自分の中にある許す気持ち、許せない気持ち」を表出させるための支援として有効に働いていました。道徳の学習において、「自分の気持ち」に気づかせ表出させる手段として、校内において共有されていくことが期待される活用でした。

どちらの学級も、子ども達の傾聴姿勢を育てていく中で、「安心・安全な風土の醸成」「共感的な人間関係の育成」が進められています。また「カード」の活用をはじめ、「グループでの対話」等を用い、子ども達に自分の考えを自己決定させ、発信させることが進められています。

今後は、授業の中で「自分の考えが役に立った、認められた」という「自己有用感」や「自己肯定感」、「友達の考えで自分の考えがこのように変わった」というような「さらなる共感的な人間関係」を道徳の学習でどのように子ども達に実感させていくのか、校内研究のさらなる深まりが期待されます。



授業前の物がまえ
授業開始の心がまえ
基本的な学習規律が整っています



表情カードを使った板書が子どもの考えを引き出していました



安心して話せる人間関係が
構築されています

心情カードによって子どもの考えの自己決定が行われ意見が明確になっていきました